

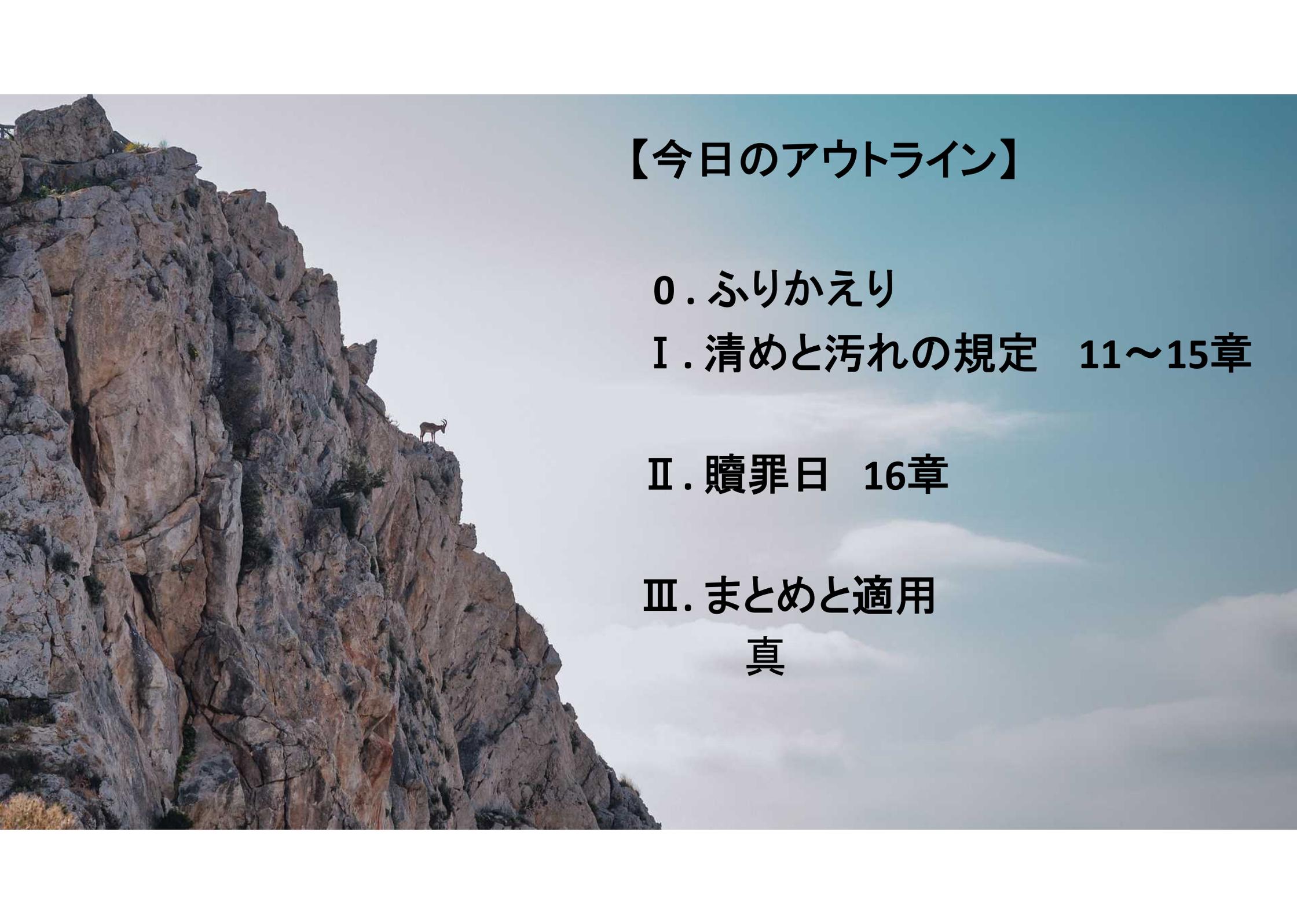
12
モ一セ

聖徒伝 38

「きよめられた
者として」

レビ記11~16章 清めと汚れ・贖罪日

しじき②



【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 清めと汚れの規定 11～15章

II. 贖罪日 16章

III. まとめと適用

真

【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

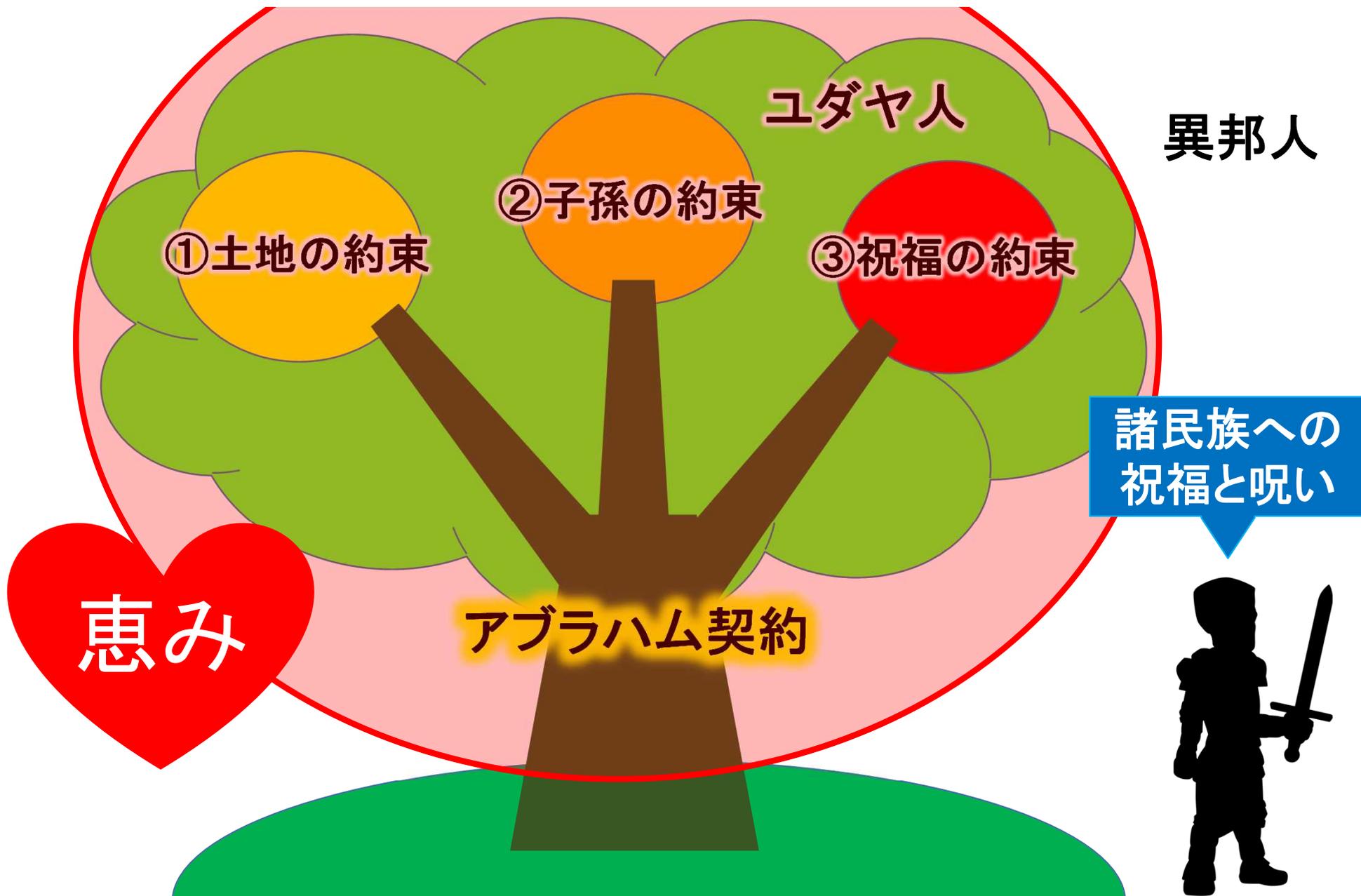
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

アブラハム契約が、
イスラエルを守り、導いた!!



【アブラハム契約】



【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

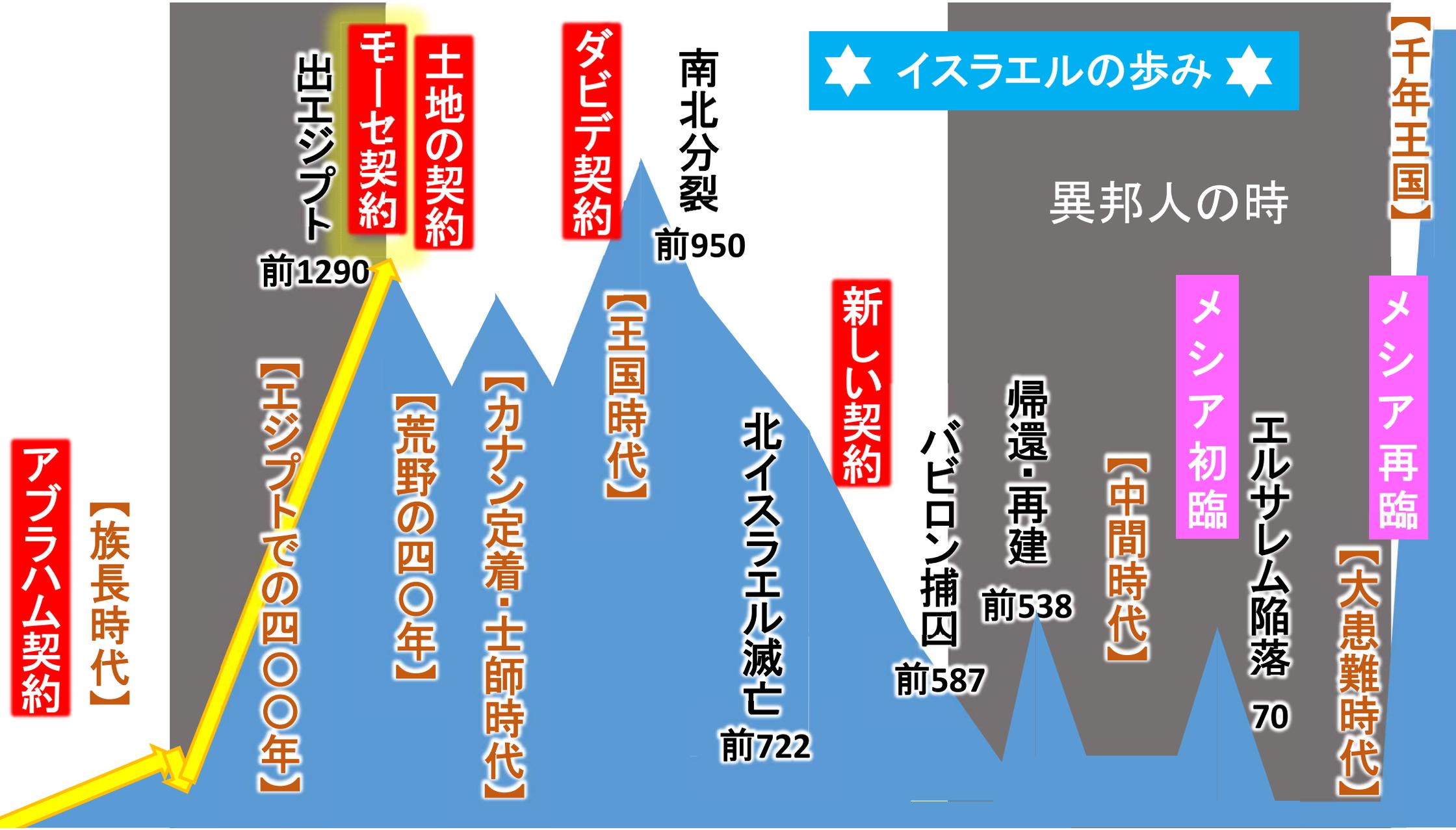
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

出エジプト

前1290

モーセ契約

土地の契約

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落

70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

0～40歳

40～80歳

80～120歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に
40才

ミディアン人の娘チツポラと結婚

荒野での羊飼生活

召命
80才

十の災い

出エジプト

シナイ契約

民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【モーセの生涯】

【イスラエルの荒野の歩み】

■エジプト → シナイ山まで

3ヶ月

■シナイ山での律法授与

- ① 一度目 40日間
- ② 金の子牛事件
- ③ 二度目 40日間

3ヶ月

■幕屋建設

(律法の学び?!)

6ヶ月

■点呼・出発

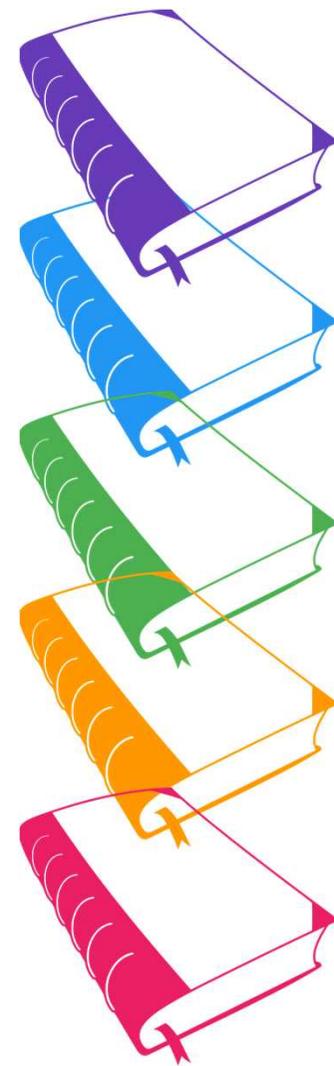
1ヶ月後



民数記

【モーセ5書の内容】

- 創世記 (「エデン契約」「アダム契約」「ノア契約」「アブラハム契約」)
...天地創造から、アブラハム⇒イサク⇒ヤコブまで。
- 出エジプト記 (「シナイ契約」・十戒)
...モーセ誕生。エジプト脱出。律法授与。幕屋の完成。
- レビ記 (三大祭)
...律法。主に祭儀と清めの条項。民の学びの期間。
- 民数記 (カデシュ・バルネア事件)
...点呼、出発。民の過ちと神への反抗。40年の放浪へ。
- 申命記 (「土地の約束」)
...40年の荒野放浪後。新世代への信仰継承。
モーセの遺言。まとめ。



【レビ記の主な内容】

■ 祭司の奉仕マニュアル

■ 正しい礼拝の方法

※聖なる国民、祭司の国 イスラエルには重要!!

【レビ記で学ぶこと】

■ 神のきよさ

■ 人の罪の深さ

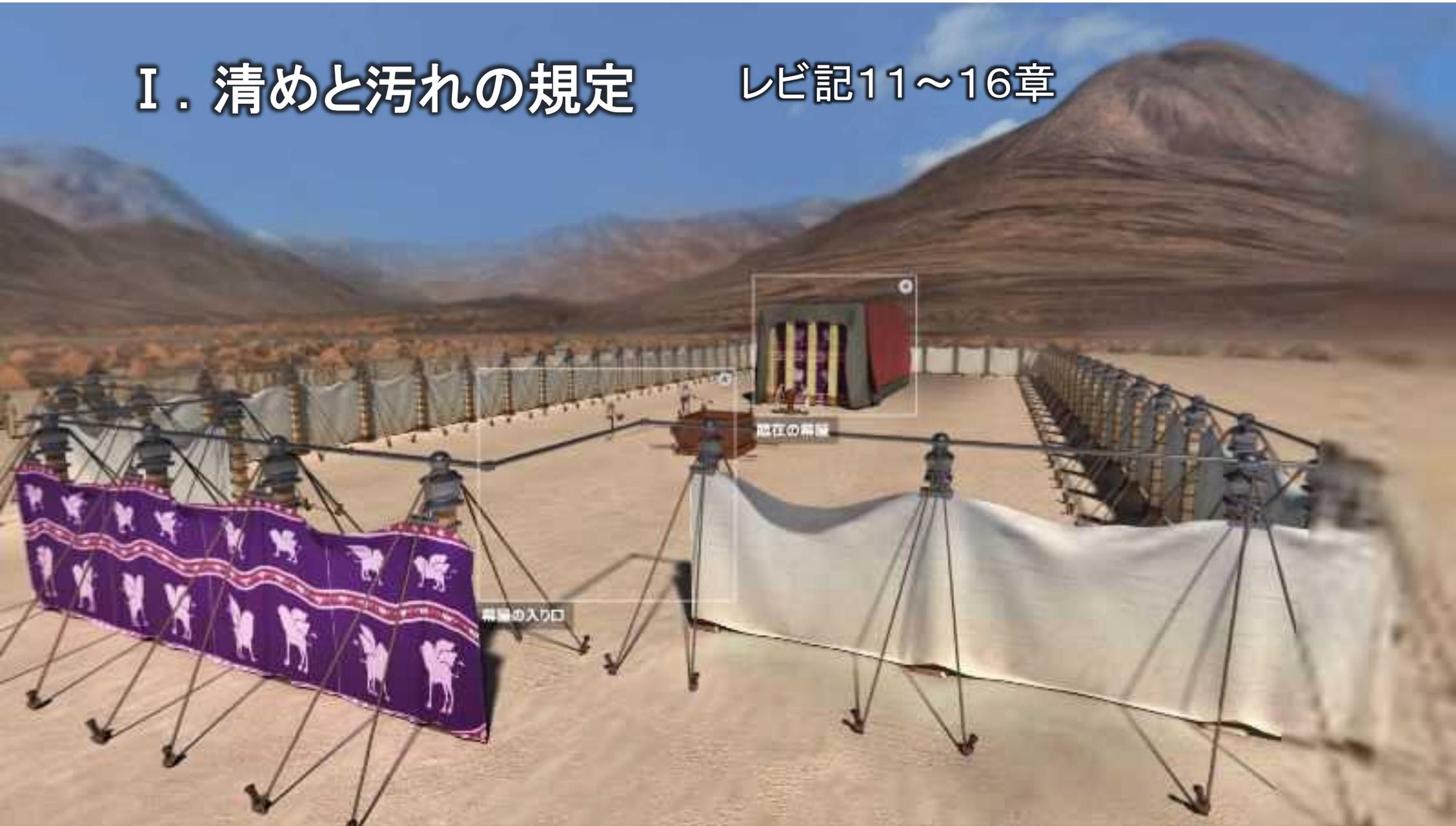
■ 神との和解には、血による贖いが必要

■ メシアとは、どのような方か



I. 清めと汚れの規定

レビ記11～16章



【清めと汚れの諸規定】 11～15章

■ここでのきよさは、道徳、倫理ではない。

“祭儀的なきよさ”

視覚的体験的に、神のきよさを教える。

①食物規定 11章

②出産についての規定 12章

③ツアラアトについての規定 13～14章

人を侵すツアラアト 13:1～59

ツアラアトの清め 14:1～29

家屋を侵すツアラアト 14:30～56

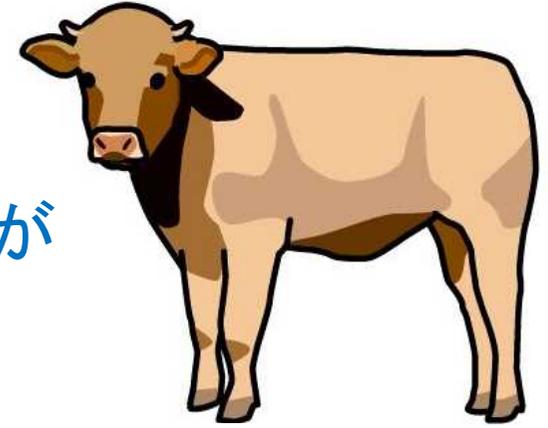
④性に関する清めの規定 15章



【①食物規定】 11章

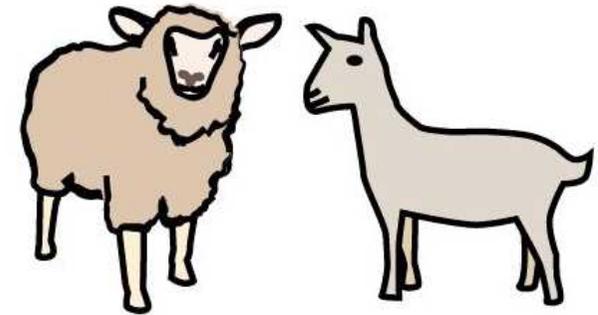
■ 食べてもよい動物

「動物のうち、すべてひづめが分かれ、完全にひづめが割れているもので、反芻するもの。」



■ 食べてもよい水中の生物

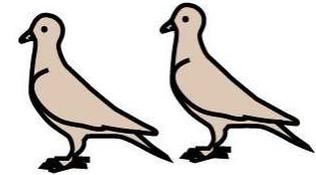
「ひれと鱗のあるものはすべて食べてもよい。」



■ 食べてもよい鳥(空を飛ぶもの)

要するに、肉食の鳥や屍肉をあさる鳥以外の鳥？!

(➡例外? だちょう、こうもりも×)



■ 食べてもよい昆虫

バッタ、イナゴの類いだけ!!

基準は、神さまだけが知っている!!



【死体からの汚れ】

■ 動物の死体に触れた者は、汚れた。

その日一日(夕暮れから夕暮れまで)は、汚れていた。

■ 汚れは、人の罪の現実を突きつける!!

人の罪のゆえに、動物は死に、地は呪われている。

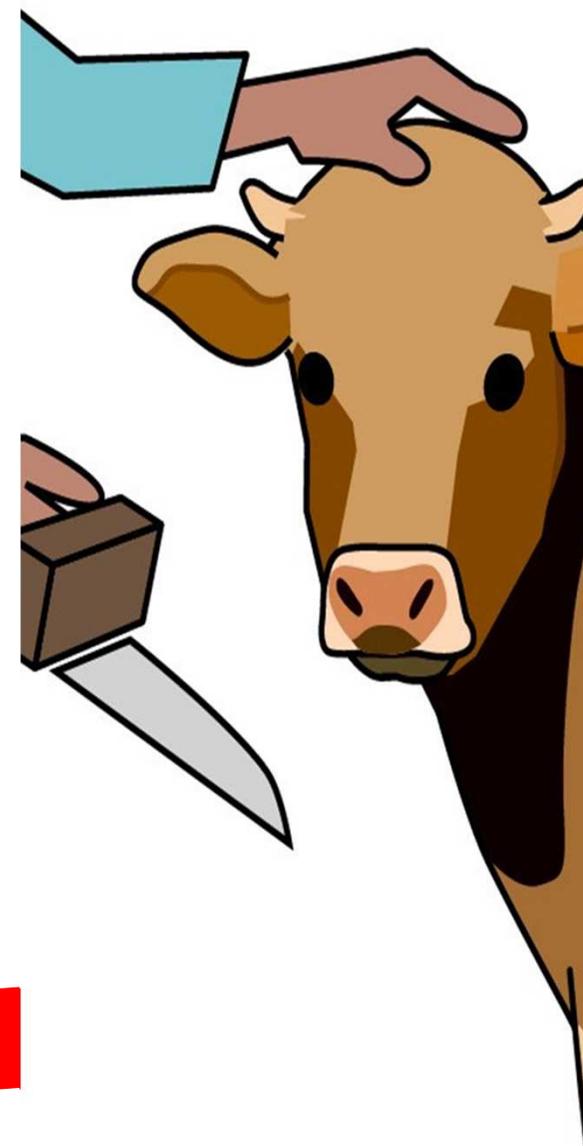
■ きよめは、神のきよさを教える!!

天地を造られた神だけが、真実にきよい方である。

➡きよい神は、ご自分の民にも、きよさを求められる。

「レビ 11:45 わたしは、あなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から導き出した【主】であるからだ。あなたがたは聖なる者とならなければならない。わたしが聖だからである。」

聖とは、罪からの分離!!



【食物規定と現代】

- 今も厳しく守られている、ユダヤの食物規定。
イスラエルには、コシエルのマックまで!! →
- 食物規定は、イスラエルと異邦人を区別した。
律法は、イスラエルを守り育むベビーベッド!!
異邦人の偶像崇拝の悪影響から保護、育成。
- 原則は、律法が役目を終えた今は、無効!!
使徒ペテロへの命令(使徒10章)
- メシアニックジューが、守るかどうかは、個人の自由。



【②出産についての規定】 12章

「女が身重になり、男の子を産んだとき、その女は七日の間汚れ、月のさわりの不浄の期間と同じように汚れる。」

■ 出産した女性の隔離期間

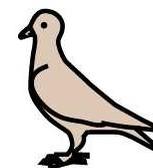
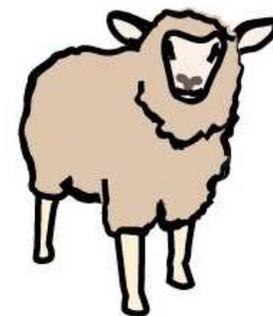
男児の出産の場合 ➡ 7日 + 33日 = 40日間

女児の出産の場合 ➡ 14日 + 66日 = 80日間

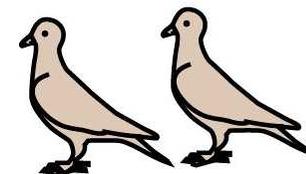
■ 祭儀的汚れの原因は、「血」

■ 清めの捧げ物は、子羊と家鳩のひな

※ 貧しい者は、鳩二羽でもOK!! 👉 ヨセフとマリア



or



【③ツアラアトについての規定】 13～14章

■ ツアラアトとは？

以前は「らい病」 ➡ 差別を助長。意味上も不適切。
※「重い皮膚病(新共同訳)」

■ しかし、家屋や衣服にも使われる。

ある種の皮膚病、重度の火傷、悪性のカビ...etc

■ ツアラアトも、祭儀的汚れを教えるもの。

➡ 人の罪の現実を突きつけ、
神によるきよめの必要を教える!!



【人を侵すツアラアト】 13章

■ 診断の判定は祭司が行う。

疑われる場合には、7日間隔離し、様子を見る。

さらに七日後、患部が広がっていなければ、もう7日。

7日+7日+7日=21日間 (最短の場合)

■ この後、祭司は「きよい」と宣言した!!

■ ツアラアトとみなされる症状

- ①皮膚病全般 ②伝染性の皮膚病 ③腫瘍の跡
- ④火傷の跡 ⑤頭やひげの疾患 ⑥皮膚に光る斑点
- ⑦病気による、はげ



【汚れのしるし】 13:45～59

■ ツアラアトと診断された時点でなすべきこと

- ① 着衣を引き裂く
- ② 髪を乱す
- ③ 口ひげをおおう
- ④ 「汚れている」と叫ぶ

➡ 死者を弔う時の動作。自らの死の宣言と言える。

【衣類のカビ】 レビ13:47～59

■ 洗ってもカビが消えない服は、燃やす。

■ これらの規定も、人の罪と死の現実を突きつけるもの。

➡ 人は、罪によって汚れ、神と断絶し、死んでいる。



【清めの儀式】 14:1~9

■ いやされ、きよいと診断された後の儀式

- ① 二羽の小鳥と、杉の木、緋色の糸、ヒソプを用意。
- ② 一羽を土の器に入れた湧き水の上で屠る。
- ③ もう一羽の鳥、木、糸、ヒソプを、水に浸し、
きよめられる人に7回ふりかけ、きよいと宣言する。
- ④ 生きている鳥を野に放す。
- ⑤ 民の宿営に戻り、7日目にすべての毛を剃り、
衣服を洗い、みずを浴びる。
- ⑥ 全焼のいけにえ以外の4つのいけにえを捧げる。

■ 二羽の小鳥が示すのは、メシアの死と復活。

➡ 真実の癒やしと救いは、メシアによって成し遂げられる。



【④性に関する清めの規定】 15章

■ 男性の性器からの漏出

- ・ 病気の漏出 ... 癒やしの後、7日のきよめの期間、鳩2羽のいけにえ
- ・ 精液の漏出 ... その日一日、汚れる。

■ 女性の性的汚れ

- ・ 月経に伴う出血 ... 7日間の隔離期間。
- ・ 性器からの漏出 ... 癒やしの後、7日のきよめ、鳩2羽のいけにえ

- 男女の性も、罪により、本来の完全さを失い、汚れたものとなっている。





Ⅱ. 贖罪日

レビ記16章

【祭司アロンへの警告】 レビ16:12

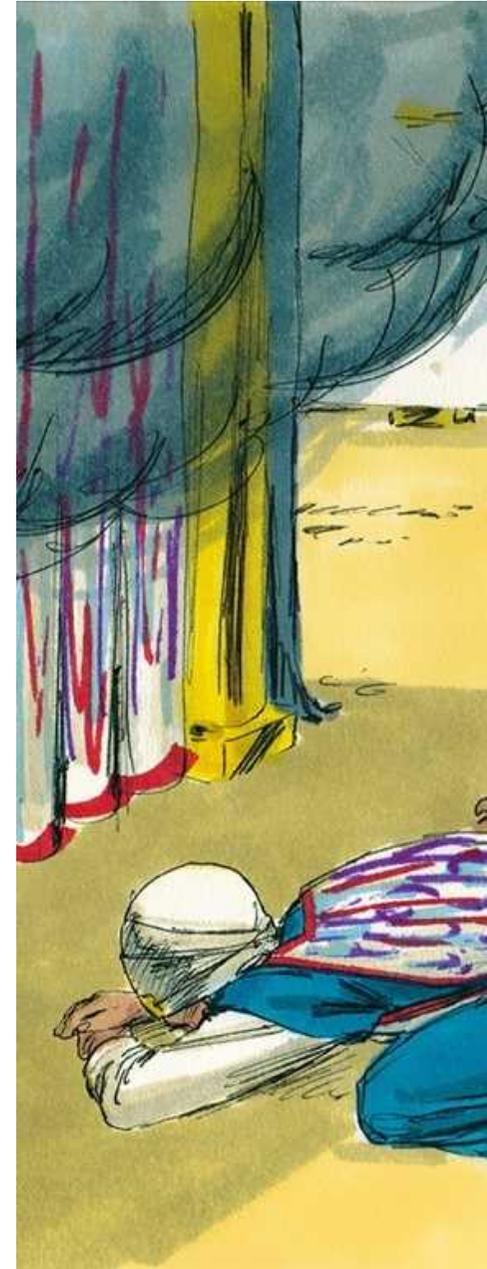
16:1 アロンの二人の息子の死後、すなわち、彼らが【主】の前に近づいて死んだ後、【主】はモーセに告げられた。

16:2 【主】はモーセに言われた。「あなたの兄アロンに告げよ。垂れ幕の内側の聖所、すなわち箱の上の『宥めの蓋』の前に、時をわきまえずに入ることがないようにせよ。死ぬことのないようにするためである。『宥めの蓋』の上で、わたしは雲の中に現れるからである。

■ アロンの二人の息子は異なる火を捧げて死んだ(10章)

■ 神は、大祭司の最も重要な務めである

「贖罪日(ヨムキプール)」について教えようとされている。



【贖罪日のための大祭司の準備】 レビ16:3～10

- ①自分と家族のための捧げ物(若い雄牛と雄羊)を準備
- ②贖罪日のための亜麻布の白い服を用意
- ③水を浴び、白装束を身につける
- ④イスラエルのためのいけにえを受け取る
 - ・雄山羊2頭(罪のため) ・雄羊(全焼)

■2頭の雄山羊の意味

- ①一頭は主に、一頭はアザゼルのため。くじで決定。
アザゼル → 解き放つ。民の罪からの解放のため?!
- ②一頭は屠り、アザゼルの一頭は、野に放つ。

イエス・キリストの十字架の死と復活を示すもの!!



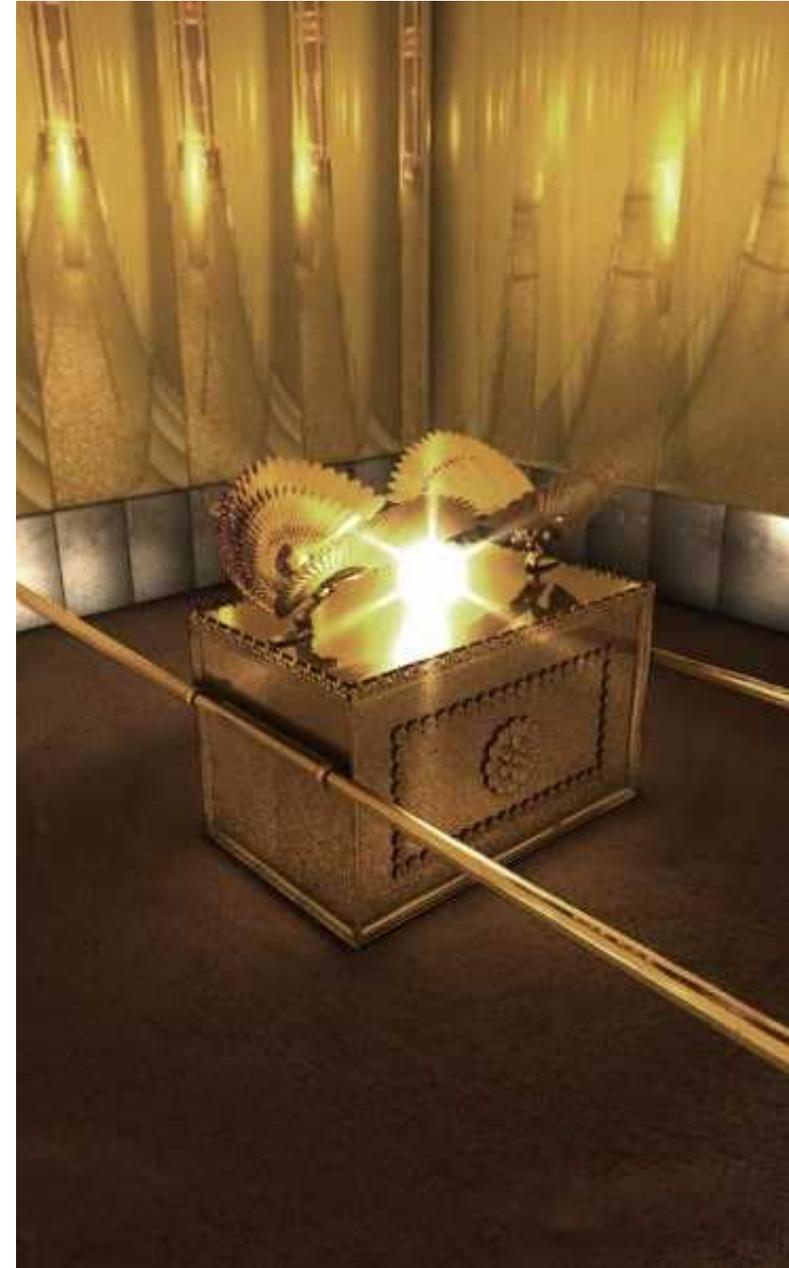
【贖罪日の二つの贖い】 レビ16:11~22

■ 祭司とその家族の贖い

■ イスラエルの民の贖い

■ 祭司とその家族の贖い

- ① 犠牲の雄羊の血をもって至聖所に入る
- ② 香からの煙で「宥めの蓋(贖いの座)」を覆う。
- ③ 雄羊の血を、「宥めの蓋」の東側に1回、前に7回、ふりかける。



【贖罪日の二つの贖い】 レビ16:11～22

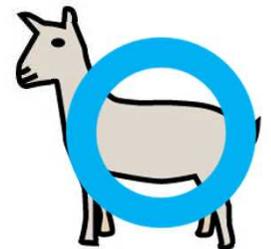
■イスラエルの民の贖い

- ①罪のためのいけにえの山羊が屠られる。
- ②大祭司一人だけが、聖書に入る。
- ③山羊の血を、宥めの蓋に振りかける。
- ④牛と山羊の血を祭壇の四隅の角に塗り、
残りの血を七回振りかける。



■アザゼルの山羊の儀式

山羊の頭に両手を置き、イスラエルの罪を転嫁。
アザゼルの山羊を「不毛の地(荒野)」に放つ。



【儀式の後のきよめ】 レビ16:23～28

■ 大祭司のきよめ

- ① 亜麻布の白装束を脱ぐ
- ② 水を浴び、大祭司の祭服に着替える

キリストは、100%人であり、100%神である

- ③ 聖所の外で全焼のいけにえを捧げる
罪のためのいけにえの脂肪は祭壇で焼く
皮と肉と汚物は宿営の外で焼く

■ キリストも、宿営(都)の外で、十字架にかけられた。
「ヘブル13:12 イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。」



【その他の規定】 レビ16:29～34

■ 贖罪日の日程

- ① 第七の月(ティシュリ)の10日 ...9月か10月頃
- ② この日、イスラエルは身を清め、断食した。
➡ 本質的に求められるのは、内面の悔い改め。
- ③ 贖罪日は、「**全き休みの日**」、最も特別な安息日。
- ④ 永遠のおきて。➡ 律法が有効である限り有効。
- ⑤ 大祭司の職は、子から子へ世襲された。

■ 贖罪日の目的

- ① 幕屋(聖所、天幕、祭壇)のきよめ
- ② 祭司とイスラエルの民のきよめ、罪の贖い。



贖罪日のきよめは一時的
永遠のきよめは、
罪を悔い改めた者が、
メシアを信じた、信仰による!!

Ⅲ. まとめと適用

わたしたちのなすべきささげ物
真実の犠牲と大祭司



【贖罪日が教えること】

■ 神は聖なる方である。

神に近づくには、神の定めた方法によるしかない。
それ以外の方法で近づけば、罪ある人はすべて死ぬ。

■ 罪人が神に近づくには、仲介者が必要

旧約時代には、大祭司。新約時代の今は、キリストが真の仲介者。

■ 罪の贖いには、血を流さねばならない。

「レビ17:11 実に、肉のいのちは血の中にある。わたしは、祭壇の上であなたがたのたましいのために宥めを行うよう、これをあなたがたに与えた。いのちとして宥めを行うのは血である。」

【真実の大祭司】

■贖罪日に、年に一度、大祭司は血を携えて至聖所に入り、イスラエルを代表して、民の罪の贖いを取りなした。

➡この贖いは、一時的なもの。毎年繰り返さなければならなかった。

■メシアなるイエス・キリストこそ、真実の永遠の大祭司である。

「しかしキリストは、すでに実現したすばらしい事柄の大祭司として来られ、人の手で造った物でない、すなわち、この被造世界の物でない、もっと偉大な、もっと完全な幕屋を通り、また、雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました。ヘブル9:11～12」

【レビ記の祭儀が示す、真実の犠牲】 ヘブル9:13～14

雄やぎと雄牛の血や、若い雌牛の灰を汚れた人々に振りかけると、それが聖なるものとする働きをして、からだをきよいものにするのなら、まして、キリストが傷のないご自分を、とこしえの御霊によって神にお献げになったその血は、どれだけ私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者にするのでしょうか。

■ 罪なき主キリストは、私の罪のために十字架にかけられ、一度きりの完全な犠牲によって、永遠に贖ってくださった。

■ これを信じた者は、罪と死から解放され、命の神に、永遠に仕える者へと変えられ、変えられ続けていく。

【レビ記の祭儀が示す、真実の仲介者】 ヘブル9:15

「キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反から贖い出すための死が実現して、召された者たちが、約束された永遠の資産を受け継ぐためです。」

- モーセ契約による律法は、人に罪と死の現実を突きつけた。
私たちは誰も、永遠の滅びを免れることはできない。
神に近づく方法を示されても、それを守り通すことができない。
- 私たちの罪は、ただ、メシアの完全な犠牲によってのみ贖われる。
メシアは、復活され、天に昇り、真の大祭司、仲介者となられた。
- この福音を信じた者は、主イエスと共に神の国を永遠に相続する。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
- ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
- ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

主イエスの贖(あがな)いは、成(な)し遂(と)げられました。わたしたちの罪(つみ)はきよめられ、神(かみ)の国(くに)を永遠(えいえん)に受(う)け継(つ)ぐものとされました。この恵(めぐ)みをさらに 味(あじ)わわせてください。わたしを 平安(へいあん)のうちに、遣(つか)わしてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」